

ピクテとサステナビリティ

2016年10月



表紙写真 - 消費をテーマとする第5回プリピクテ (Prix Pictet) 作品
「カンザス州ユリシーズのセンターファイヤー肥育場:牛肉と石油シリーズ」(Mishka Henner)

©Mishka Henner,Prix Pictet Ltd

このシリーズは、北米において最も貴重な商品である、牛肉と石油への異常なレベルの消費需要を満たすために醜く変形された風景を、大型写真により描いている。地球を周回する衛星から見たこれらの風景には、異常なレベルに達した人間社会による消費を満たすため、生産と収益を最大化するという徹底した意図が刻み込まれている。

目次

2	はじめに
4	投資
4	環境関連投資
5	サステナブル投資
8	主戦略
10	ピクテ社員とサステナビリティ
10	パートナーと社員
11	人材開発
12	エンゲージメントと健全性
13	環境への責任
13	社内環境への取り組み
17	二酸化炭素排出量の削減
18	二酸化炭素排出量のオフセット
19	社会貢献活動の伝統
22	プリピクテ (Prix Pictet)
22	ピクテ・グループ慈善財団
24	その他の取り組み

はじめに

「サステナビリティ（持続可能性）は、ピクテの経営理念の中核をなしています。ピクテは211年前に設立されて以来、常にお客様の資産を長期的に保全することに努めてきました。したがってピクテのパートナーたちは特に意識することなく、次世代の利益を第一として考えるようになりました。」



ここに、ピクテが新たに刊行した「ピクテとサステナビリティ」をご紹介します。

サステナビリティは、ピクテの経営理念の中核をなしています。ピクテは211年前に設立されて以来、常にお客様の資産を長期的に保全することに努めてきました。したがって、ピクテのパートナーたち（歴代パートナーの総数は、過去2世紀を通じて41名に過ぎません）は、特に意識することなく、次世代の利益を第一として考えるようになりました。

すべての企業は、純粋なビジネスの目的を超えて、幅広く社会的責任を有しています。ピクテでは、

ビジネスの運営から、お客様に代わり行う投資に至るまで、私たちが行うすべての事業活動がもたらす環境への影響に配慮しています。

私たちはあらゆるニーズを満たすために自然資源を消費していますが、この消費から生じる温室効果ガス、空気、水、および、土壌の汚染、森林破壊、生物の多様性の減少などは、環境に多大なる影響を与え、次世代の利益を損なう原因となっています。

それに対してピクテは、一例を挙げますと、ピクテ・グループの社員一人当たりの二酸化炭素排出量を2020年までに削減するという明確な目標を設定しています。

またピクテは、サステナブル投資のパイオニアです。2000年、水資源分野に特化した世界初のファンドである、ウォーター・ファンドを設定しました。このファンドは今日でも、この分野で最大規模のファンドです。その他、このような先駆的なファンドとしては、2008年に設定したティンバー（森林資源）・ファンドがあります。さらに幅広くみると、ピクテは、宗教改革の精神に根ざした慈善活動の伝統を通じて、社会貢献に取り組んでいます。長年にわたりピクテのパートナーたちは、医学研究、文化、社会的・人道的な分野で貢献してきました。2009年に設立されたピクテ・グループ慈善財団は、現在、ピクテ・グループの社会貢献活動の基盤となっています。2008年、ピクテ・グループは、サステナビリティをテーマとし今日の社会問題や環境問題に迫る国際写真展およびアワード、プリピクテ（Prix Pictet）を創設しました。プリピクテは、優れた写真作品を通じ、環境のサステナビリティに関して人々の問題意識を高めることを主たる目的としています。しかし、これらは社員の協力なし

では成し遂げることはできません。お客様に対しての責任、社員相互の責任、そして、私たちが働き、生活するより広い世界に対する責任能力を高めるためにも、ピクテ社員自身の幸福が不可欠になります。

ピクテでは、サステナブル投資委員会（SIB:Sustainable Investment Board）を発足させました。この委員会は、サステナブル投資をグループ全体規模で発展させ、ピクテの事業活動が環境に与える影響についても総合的に考えることを目的としています。

これらの取り組みにより、ピクテはサステナビリティを促す行動を推進しています。なぜならこの問題はお客様と私たち社員のみならず、この地球上に生活していく次世代のすべての人々にも影響を与えるからです。

ピクテ・グループ・パートナー
サステナブル投資委員会委員長

ロゴン・ラムゼイ
Laurent Ramsey

投 資

サステナビリティは今日、収益性の高い投資テーマのひとつとなり、その魅力に惹きつけられる個人および機関投資家の数はますます増えています。

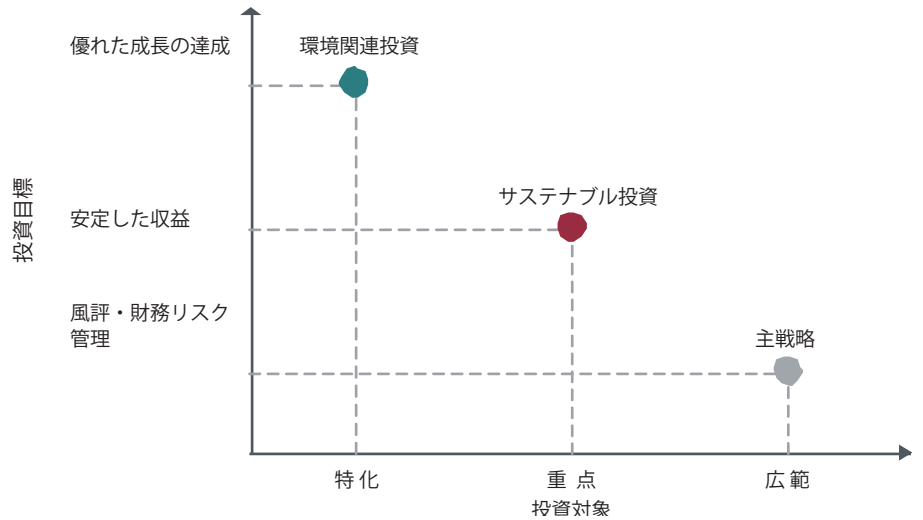
世界経済をより持続可能（サステナブル）な方法で運営していくためには、明確な政策が要求されますが、それ以上に、資源消費がより少ない、新しい技術とサービスへの莫大な投資が必要となります。

今日、サステナビリティが収益性の高い投資テーマのひとつとなり、長期的視野を持つ個人投資家および機関投資家を多く惹きつけていることを考えると、資産運用業界は、この目標を達成するうえで重要な役割を担う可能性を持っています。ピクテの投資アプローチは、お客様の財務目標を達成すると共に、環境、社会、ガバナンス（ESG:Environmental,Social and Governance）の問題についての懸念にお応えします。

2007年、ピクテはサステナブル投資へのコミットメントを強化するため、国連責任投資原則（UNPRI:United Nations Principles for Responsible Investment）に署名しました。UNPRIは、投資および保有にESG問題を組み入れる枠組みを投資家のために提供する新たな構想です。

グループの機関投資家部門であるピクテ・アセット・マネジメントでは、2つの側面からサステナブル投資を開発してきました。第1に、ピクテはテーマ別のアプローチを採用し、環境テーマやサステナビリティのコンセプトの中心となるセクターに焦点を当て、第2に、多様なセクターを投資対象としたサステナブル・ポートフォリオを構築し評価を高めています。

ピクテの投資ソリューション



環境関連投資

世界人口の継続的な増加、GDPの増加による消費行動の変化、天然資源不足の深刻化などは、投資家にとってきわめて興味深い投資機会を創出します。

将来に備えるためには、未来の世界を形成するような構造的な流れを認識しなければなりません。たとえば世界人口の継続的な増加、GDPの増加による消費行動の変化、天然資源不足の深刻化などは、すべての産業にとって重大な問題となっています。ピクテが「メガトレンド」と呼ぶこれらのグローバルな動向は、長期的な、投資家にとってきわめて興味深い投資機会を創出します。

過去16年間、ピクテ・アセット・マネジメントは、さまざまなメガトレンドが交差するいくつかの環境関連の投資戦略を開発・設定し、この分野におけるパイオニアとなりました。以来、ピクテはこれらの分野で主導的な役割を担っています。

2000年に立ち上げたピクテのウォーター・ファンドは、水資源分野に特化した世界最初の本格的なファンドであり、今

過去16年間、ピクテ・アセット・マネジメントは、いくつかの環境関連投資を開発・設定し、この分野におけるパイオニアとなりました。

ピクテは、社会的責任を強く自覚し、財務のみならず、それ以外の見地からも優れているクオリティ企業を投資対象としています。

日にいたってはこの分野では最大規模のファンドとなっています。都市化の進展、水に大きく依存する経済成長、きれいな水の不足など、この投資戦略は、おそらく世界で最も重要な資源に焦点を当てた戦略です。ポートフォリオは、水関連の事業から収益の約3分の2を得ている企業から構成されています。当ファンドの戦略は、長期的な観点から、ディフェンシブ株と成長株の魅力的な組み合わせを提供しています。

2007年以來、ピクテのクリーン・エネルギー・ファンドは、低炭素経済への移行に貢献し、ここから収益を得る企業に投資する機会をお客様に提供してきました。これらの企業は、よりクリーンなインフラや資源、そして二酸化炭素低減技術や機器の開発に携わっています。また、当投資戦略はエネルギーの効率化によってエネルギー需要の削減に貢献する企業も投資対象としています。

ピクテはまた、2008年、ティンバー（森林資源）・ファンドを立ち上げ、この分野でもパイオニアとなりました。森林を所有し管理する上場企業に投資するこのファンドにより、投資家は、従来の投資ファンドの利便性と流動性の恩恵を受けながら、森林という戦略的な再生可能資源に投資することができます。

同年、ピクテは、伝統的な農業手法からアグリビジネスへの変革により農業分野での新たな投資機会が創出されることに着目し、アグリカルチャー（農業）ファンドを立ち上げました。ボトムアップ銘柄選択プロセスにより、農業手法を改善するためのソリューションを提供する企業に焦点を当て、アグリビジネスのバリューチェーンにある世界中の企業に投資します。一方、遺伝子組換え生物（GMO）への投資に関しては厳格な方針を貫き、環境破壊企業を除外しています。

サステナブル投資

ピクテ・アセット・マネジメントは1997年以來、幅広く分散されたサステナブル投資を検討してきました。ピクテは、社会的責任を強く自覚しているクオリティ企業を投資対象としています。成長戦略の中にサステナビリティを組み込んでいるこのような企業は、新たなビジネスチャンスをつかみ、経営、風評、財務リスクを軽減し、社員のモチベーションを高め、最終的に株主の視点に立った長期的な価値を創り出すと考えるからです。

これを念頭において、ピクテは、一過性のブーム（バブル）に乗ったビジネスモデルを回避しつつ、魅力的かつ安定的な株主還元を可能とする企業

ピクテのサステナブル株式ファンドは、欧州サステナブル投資(SRI)透明性規範に準拠しています。

の能力を捉えるように設計された、新しい投資の枠組みを開発しました。投資対象となるには、企業は財務のみならず、それ以外のいずれの見地からも優れている必要があります。一方、株主、社員、消費者や環境を犠牲にして収益を上げる企業、同様に「グリーン」であっても財務的に魅力的でない企業を除外するように努めます。

この戦略を基にしたピクテの最初のファンド、スイス・サステナブル株式ファンドは、1999年に設定され、その後すぐに欧州サステナブル株式ファンドが設定されました。サステナブル株式におけるピクテの専門性はさらに拡大し、2012年には、新興国サステナブル株式ファンドが設定されました。

これらのファンドはすべて、欧州サステナブル責任投資(SRI: Sustainable and Responsible Investments)透明性規範に準拠しています。この規範は欧州の金融市場において、SRIファンドの原則とプロセスに準拠してサステナビリティを推進することを目的とする、非営利会員組織、欧州責任投資フォーラム(Eurosif: European Sustainable Investment Forum)によって2004年に制定されました。

ポートフォリオは、コア株式へのエクスポージャーを提供すると同時に、持続可能な企業に投資するという利点を有しています。当戦略は、低炭素エネルギー源、健康食品や医療機器関連企業を高く評価し、一方、いわゆるジャンクフードやタバコ産業は除外します。たとえば、ピクテの新興国サステナブル株式ファンドが選択した企業は、二酸化炭素の排出量が他よりも40%少なく、賄賂など、ESG(環境、社会、ガバナンス)上の問題への関わりも少ない企業です。

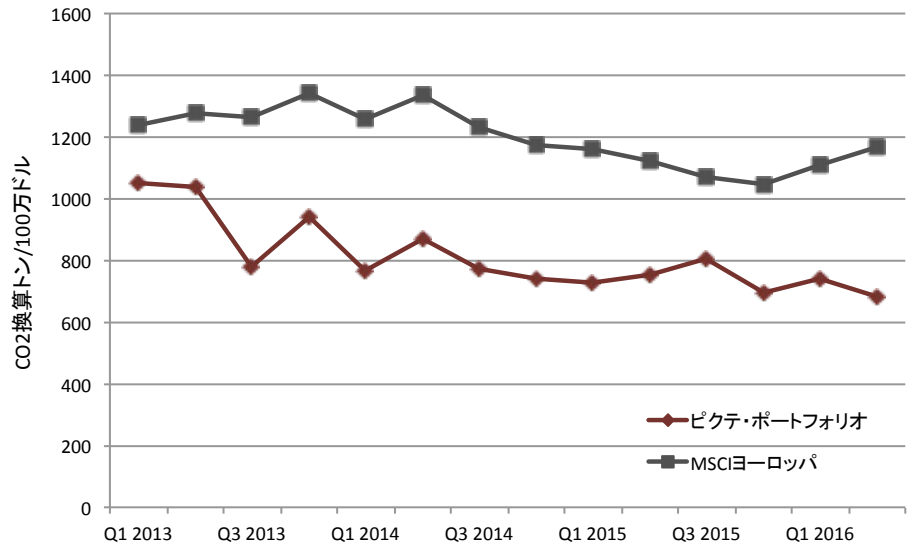
サステナブル投資の開発が認められ、ピクテは2012年に英国ペンション・アワードで、2013年には欧州ペンション・アワードで、SRI/ESG Provider of the Year 賞を受賞しました。またピクテの欧州サステナブル株式ファンドと新興国サステナブル株式ファンドは、欧州SRI市場に関する研究と情報提供を行う、パリを拠点とする研究センター、ノベシック(Novethic)からSRIラベルを授与されています。

2016年6月30日現在、ピクテは環境関連投資とサステナブル投資において、100億米ドル近い資産を運用しています。



ロンドン・ブラックフライアーズ駅プラットホームの太陽電池パネルの屋根 ©Justin Kasezsiz/Alamy Stock Photo

ピクテ欧州サステナブル株式ファンドの二酸化炭素排出量



主戦略

ESG（環境、社会、ガバナンス）は、投資判断において不可欠な要素と見なされるようになってきました。2013年、ピクテはESG統合プログラムを立ち上げ、コーポレート・ガバナンスや問題行為などの重要な情報をピクテの全投資チームが共有することにより、ESG基準の利用を推進しています。このプログラムはまた、組織的に議決権を行使し、社会的批判的になる兵器の生産に関与する企業を除外します。

アクティブなオーナーシップ

ピクテは、ピクテ・アセット・マネジメントが運用するすべてのアクティブファンドと、大部分のパッシブファンドに適用される議決権行使に関するポリシーを確立しています。この

ポリシーは、企業ガバナンスにおいて広く受け入れられているベスト・プラクティス基準に基づいており、株主の利益を第一に考えています。

議決権代理行使は、株主総会に出席できない、または出席したくない株主に、株主総会で投票にかけられる議題について意見を述べる機会を与えています。

ピクテの議決権行使ポリシーは、投資先企業の社員、顧客、取引先などの他のステークホルダーの利益が、株主の利益と競合しないように配慮しています。

同時に、企業ガバナンスにおけるベスト・プラクティスを企業側に醸成させる上で確固たる実績を持つ外部プロバイダーのハーミーズ株主サービスを起用し、ピクテの環境関連投資の投資先企業との対話を推進しています。

ピクテのESG統合プログラムは、組織的に議決権を行使し、社会的批判的になる兵器の生産に関与する企業を除外します。

社会的批判の的になる兵器

ピクテ・グループは、社会的批判の的になる兵器に関与する企業に投資しないことにコミットしています。社会的批判の的となる兵器とは、対象が無差別であり、多くの害を引き起こす兵器です。これらは国際条約によって規制されているすべてのクラスター爆弾、対人地雷、および化学・生物兵器を含んでいます。

ピクテは、国際条約に準拠し、自社勘定、アクティブファンド、一任勘定のいずれかを問わず、これらの兵器を製造する企業には投資しません。

ピクテは、評価の高い外部の調査会社を利用し、これらの兵器に関与する企業のリストを作成しています。この調査結果は、ピクテのサステナブル投資委員会に年2回提出され、この調査結果に基づいてピクテが除外すべき企業が検討されます。このリストには、現在50社以上の企業が含まれています。

ピクテ社員とサステナビリティ

ピクテは、その独立性により、長期的な視野に立って投資を行い、今日まで事業を拡大することができました。同様にピクテの独立性は、社員の雇用と管理においても長期的アプローチを続けてきました。こうした努力のもと、ピクテは211年にわたり、預かり資産と社員数のいずれも着実に増やし続けることに成功してきました。

「ピクテは強い信念を持っています。それは、お客様を幸せにするためにはまず社員を幸せにしなければならないということです。」

ニコラ・ピクテ
ザ・ビジネス・タイムズ (シンガポール)

2015年5月16～17日

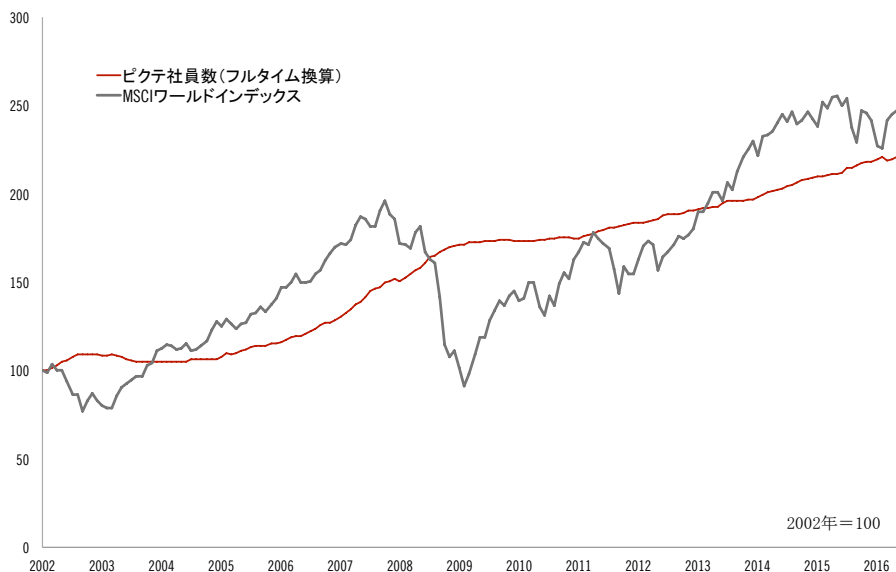
過去36年間でピクテの社員数はジュネーブ本社で働く300名から、世界26都市で働く3,900名を超える社員数

へと急速に成長してきました。

ピクテは、わずか4.4%という金融業界で最も低い退職率を誇っています。また平均勤続年数も、近年の標準と比べるときわめて長くなっています。

長期的なパフォーマンスと有機的成長へのコミットメントに基づき、ピクテは常に長期的視野に立って採用を行い、社員のキャリアに投資しています。社員一人ひとりが自分のスキルを向上し続けることができるよう、ピクテは継続的にトレーニングを提供しています。つまりそれは、ピクテ・グループが常に変化するビジネス環境に適応するための人材を有するということです。このアプローチは、事業に安定性をもたらし、ピクテ・グループの価値と企業文化を高めます。さらに社員と会社との間の信頼関係を強化することで、ピクテとお客様の永い信頼関係をつくり出します。

MSCIワールド・インデックスと対比した2002年以降のピクテ社員数の推移



長期的なパフォーマンスと有機的成長へのコミットメントに基づき、ピクテは長期的視野に立って採用を行い、社員のキャリアに投資しています。

パートナーと社員

ピクテでは、客観的かつ明確な目標設定に基づいた功績報酬制度をとることで、各社員のモチベーションを高めることを目指しています。パートナーは毎年、スタッフの給与が適切かつ公正であることを確認するため

に、社員の30%以上について給与の見直しを直接行います。

1921年、ピクテは、社員に対しインセンティブとしての利益分配制度を世界で初めて導入した銀行の一つでした。毎年、利益の一部が社員に分配されますが、この制度はすべてのス

スタッフに開かれており、現在、約60%の社員がこの制度の恩恵を受けています。大部分の社員がピクテの成長と成功に直接関わっているため、グループとパートナーの利益は、社員の利益ともいえます。これは、ピクテの長期的視野に立ったビジネス戦略の根幹でもあります。

人材開発

モビリティ

ピクテは、機関投資家と個人投資家向けの資産運用とアセット・サービスに特化し、プライベート・ウェルスマネジメントの世界的リーダーとして認められている、世界16ヵ国に展開する国際的な企業です。ピクテは、地域間および各部門間の双方における社員の流動性（モビリティ）を奨励しています。これにより、グループ全体での企業文化の定着を促し、スタッフが他の部門に対しより深い理解を得ることを可能にしています。

学習と開発

グループ全体で講師による270以上のトレーニングコースと、300におよぶイントラネット・研修プログラムが提供されています。これらのコースは、一般的な経済・金融から、デリバティブやコンプライアンスに関する専門クラス、さらにスピーチや、採用・異動に関わるソフトスキルに至る広範なトピックをカバーしています。

ピクテにとって最も重要なことは、社員一人ひとりがリーダーシップをもち卓越性と尊敬を高めることであり、それは、社員のパフォーマンス、エンゲージメントを向上させ、福利をもたらすと考えます。マネージャーは、そのキャリアを通じて、さまざまな研修と自己啓発プログラムに参加することができます。これらのなかには、専門家が行う多くのプレゼンテーション、コーチングセッションや共有機会といった内容を盛り込んだ、新任マネージャープログラムが含まれます。マネジメントスキルを

ピクテにとって最も重要なことは、社員一人ひとりがリーダーシップをもち卓越性と尊敬を高めることであり、それは、社員のパフォーマンス、エンゲージメントを向上させ、福利をもたらすと考えます。



ピクテでは、次世代のスタッフにトレーニングと機会を提供することを社会的責任と考えています。

最近の調査が示しているように、企業が持続的な競争力を持つためには、業績だけに頼る昔ながらのやり方では十分ではなく、いわゆるソフト面（福利厚生、社員のエンゲージメント、リーダーシップの質、働く環境）などは少なからずとも業績と同じくらい重要です。

評価し、建設的なフィードバックを奨励する、チームの360度評価も行っています。

たとえばジュネーブに続く規模であるルクセンブルク・オフィスでは、新たなマネージャー全員（2015年までに60名以上）がこのプログラムを受講しています。

2009年にはピクテ・アカデミーが設立されました。社員とグループ全体のトレーニングと開発に取り組む、個々人の学習と組織の活性化を奨励し、イニシアチブを助言、評価、実施しています。その他の活動としては、広範囲にわたるトレーニングコース、外部講師による講演や、総合的なeラーニング研修プラットフォームを提供しています。

インターンシップ・プログラム

ピクテのインターンシップ・プログラムは、メンターの指導の下で、資格取得のための実習や大学課程プログラムを通じて、実務経験を積むための貴重な機会を学生たちに提供しています。

ピクテでは、次世代のスタッフにトレーニングと機会を提供することを社会的責任と考えています。このため、近年、ローザンヌ大学（HEC Lausanne）とローザンヌ連邦工科大学（EPFL）キャリアセンターとのパートナーシップを締結しました。

さらに、ジュネーブ本社において、マネージャーや社内トレーナーによる、グループのさまざまな部門の実習生向けトレーニングを実施しています。2015年には、トレーニングとサステナビリティへのコミットメントに準拠し、地域経済への貢献の一環としてインターンの採用を倍増しました。今日の実習生は、明日の有資格労働者となります。実習期間に取得した堅固な実務経験、スキル、知識は、彼らの全キャリアを通じ、世界のどこでも役立つものとなるでしょう。

エンゲージメントと健全性

組織の健全性プログラム

最近の調査が示しているように、企業が持続的な競争力を持つためには、業績だけに頼る昔ながらのやり方では十分ではなく、いわゆるソフト面（福利厚生、社員のエンゲージメント、リーダーシップの質、働く環境）などは少なからずとも業績と同じくらい重要です。組織におけるこれらの組織の健全性の問題に対処することが、持続的に人々を引きつけ、長期にわたり雇用するためのもうひとつの方法です。

2012年に発表されたピクテの組織の健全性プログラムは、高いモチベーションとコミットメントを維持できるように、社員のニーズを理解することを目指しています。プログラムは、すべての部門を対象とし、すでにくつかの部門がこれに参加しています。プロセスは、以下を含む5つの段階から構成されています。

› 部門の全スタッフを対象とし、価値感や認識、目標や方向性、仕事の配分、コミュニケーションの質、発展やモチベーションのトピックに関する調査。

› 調査によって判明した重要な問題に取り組むための、部門のスタッフを対象とするピクテ・アカデミー・ワークショップ。

› スタッフのコミットメントを強化するための、組織の改善と必要なリソースの確保、具体的なコーチング、コミュニケーション・トレーニングなどを主とする特定のプログラム。

オフィス環境における社員の健康

ヌーシャテル大学（University of Neuchâtel, Switzerland）から学術専門家が招致され、ピクテにおける作業環境の人間工学的分析を行い、照明、騒音、ライフスタイル、ストレス、疲労などさまざまな事項について、ロジスティクス部門に助言を行いました。この分析により、オフィス環境で社員の福利を向上させるため

環境への責任



ジュネーブのピクテ本社屋上に設置された太陽熱設備と太陽光発電システム

ジュネーブのピクテ
本社は、環境への影
響を最小限にし、労
働環境、社会環境を
最適化するように設
計されています。

のさまざまな要因が確認されました。

社員はソフロロジーによる呼吸と可視化技術に基づく、ストレスとエネルギー管理に関するトレーニングを受けています。また、マネージャーのための6ヵ月間のパイロット・プログラムが2014年に開始されました。これは、ストレスを軽減するための生理学的検査を含んでいます。将来的には、このプログラムは、すべての社員を対象として実施されます。

環境への直接的な影響を管理し、改善することは、ピクテの社内的な業務における重要な部分をなしています。

2006年に完成したジュネーブ新本社ビルの建設には、これらの原則が反映されています。この新本社ビルは、環境、労働、社会的条件の各面で最適化されています。ピクテはまた、

エネルギー、水、紙を節約し、クリーンなエネルギーを生産し、消費するための具体的な措置をとっています。

ピクテは、社内業務の定義を拡大し、ジュネーブ本社のみならず、全世界に広がるグループの事業活動のすべてにこれらの原則を適用しています。たとえば、オフィスの電力消費に起因する二酸化炭素排出量を削減するために、クリーン・エネルギーの構想を可能な限り取り込んでいます。

社内環境への取り組み

ジュネーブのピクテ本社は、建物の環境への影響を最小限にするように設計されています。そのための具体的な特徴は次の通りです。

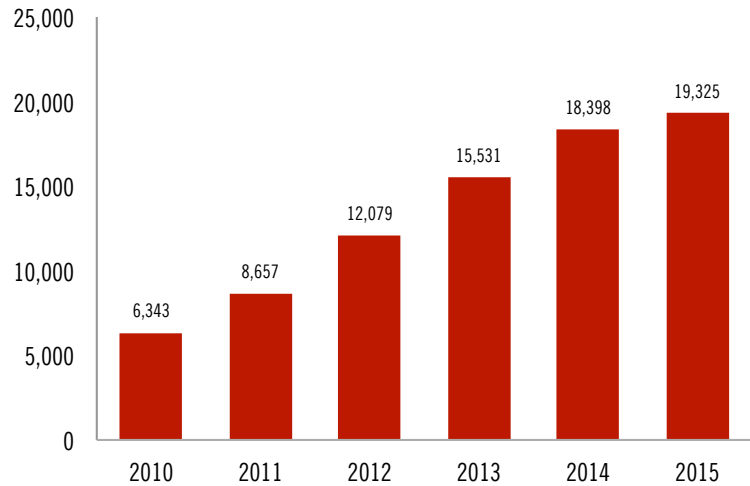
-PVCおよびポリウレタン建材の不使用。





スイス・ジュネーブ・アカシアのピクテ本社

ビデオ会議数



2008年に設置されて以来、太陽熱設備と太陽光発電システムは、燃料油60万リットルに相当するエネルギーを生成し、これにより1,800トン以上の二酸化炭素を削減することができました。

- 電気設備におけるハロゲンの不使用。
- 照明の100%近くに省エネルギー電球を使用（その内の15%がLED）。
- ヨーロッパ最大の太陽熱設備（冷暖房）のひとつを設置。
- 建物内で発生する熱エネルギーの高い再利用率。

ピクテ本社の他の取り組みにより、以下のような成果が達成されています。

▷ ガスは主に冬季に水を温めるために使用しますが、その消費量は、これ以上の削減の余地が無いほどのレベルまで減少しました。具体的には、2007年の2,722メガワット/時から現在の210メガワット/時まで、92%減少しています。

▷ 太陽熱設備と太陽光発電システムが2008年に設置されて以来、燃料油60万リットルに相当するエネルギーを生成し、これにより1,800トン以上の二酸化炭素を削減することができました。ジュネーブでは、太陽熱によるヒーティング・ネットワークは、ピクテのオフィスがある他の建物にも拡張されました。このシステムは、ピクテにおける化石燃料の消費量を削減

すると同時に、実質的な節約をもたらしました。

▷ ビデオ会議と電話会議システムの改善により、スタッフ間でのこれらのシステムの使用が急速に増加しました。2015年には、ビデオ会議数は合計19,325に達し、2014年から5%増加しました。ピクテでは、二酸化炭素排出量の最大の原因のひとつである出張の数を減らすために、ビデオ会議および電話会議システムの使用をさらに増やすことを目指しています。

▷ 紙に関しては、使用量の削減を目標とし、リサイクルを推進しています。2013年には、グループ全体で多機能プリンタが設置されました。これにより現在までに、二酸化炭素120トン、森林2ヘクタールに相当する100トンの紙を節約することができました。2015年、ピクテは最大260トンの紙をリサイクルしました。また業務用のすべての用紙は、森林管理協議会（FSC: Forest Stewardship Council）認証済みの無塩素漂白のものを使用しています。

これらの施策の結果、ジュネーブ・アカシアのピクテ本社は2013年、ジュネーブ州が採用する基準に基づき「エネルギー・ハイパフォーマンス」認証ををスイス政府から授与されました。この認証は、ピクテの本社社屋

が環境に優しく、エネルギー効率に優れていることを示しています。

2007年、ピクテは、2020年までにグループ全体の社員一人当たり排出量を40%削減することを決定しました。現在までに25.6%の削減に成功しています。

ピクテ・グループのサステナビリティ戦略を社員とお客様の間に推進することにより、ピクテは環境問題に対する意識を高め、グループが支援する環境・社会事業への貢献を促進しています。これは、社内文書や展示会などを通じて、さまざまな方法で行われます。最近では、気候変動をテーマとするマネージャー向けのオフサイト・ミーティングが行われました。また、お客様との投資会議では、サステナブル投資に関するワークショップやプレゼンテーションが行われます。ピクテの太陽熱による冷暖房設備を見学するガイド付きツアーへの申し込みが増加していることは、環境保護への意識が、お客様と社員いずれの間でも高まっていることを示しています。

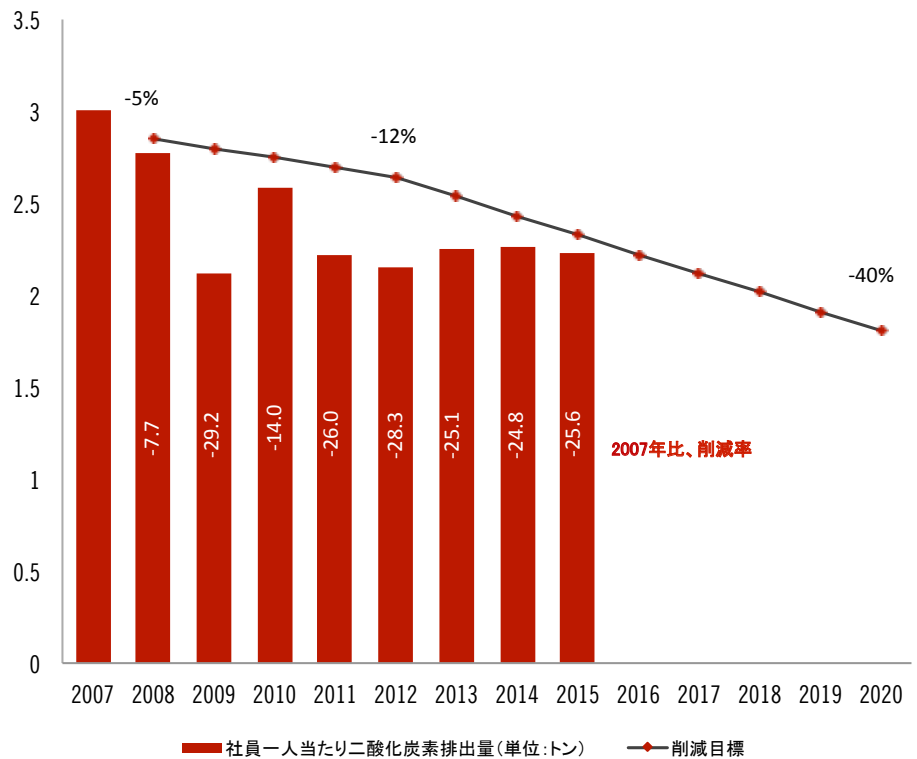
二酸化炭素排出量の削減

2007年、ピクテは、グループの二酸化炭素排出量の記録を開始し、積極的な長期削減目標を設定し、2020年までにグループ全体の社員一人当たり排出量を40%削減することを決定しました。二酸化炭素排出量は、常に予測可能なパターンに従っているわけではありませんが、この削減目標は現実的なものといえます。

絶対量では、ピクテ・グループは2015年に10,425トンの二酸化炭素を排出しました。2007年以来、ピクテ・グループの社員数（有期契約や外部コンサルタントを含む）は54.8%上昇し、10拠点に新しいオフィスが開設されましたが、社員一人当たりの二酸化炭素排出量は、同期間に25.6%減少しています。

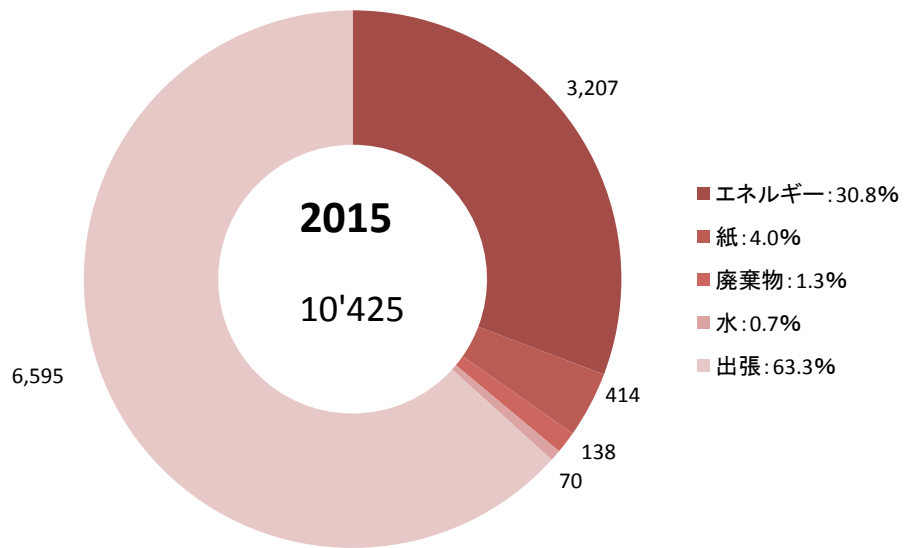
グループによる二酸化炭素排出量中、出張とエネルギー消費によるものがそれぞれ63.3パーセントと30.8パーセントを占めています。

ピクテ・グループの社員一人当たり二酸化炭素排出量



ピクテにおける二酸化炭素排出量の内訳（単位：トン）

2014年以来、ピクテ・グループでは、カーボンニュートラル、すなわち二酸化炭素排出量が正味ゼロとなっています。



二酸化炭素排出量のオフセット

ピクテの二酸化炭素戦略は、社内でのエネルギー効率の向上と、二酸化炭素排出量をオフセット（相殺）するための取り組みの二本立てとなっています。2014年以来、ピクテ・グループでは、カーボンニュートラル、すなわち二酸化炭素排出量が正味ゼロとなっています。これは、さまざまなクリーンエネルギー・プロジェクトに資金を提供することにより、ピクテの2020年までの二酸化炭素全排出量に等しい70,000トンオフセットすることによって達成されています。

これらのプロジェクトには、たとえば中国の四川省、重慶市、雲南省、貴州省における小規模水力発電所の建設があります。これらの発電所はダムを必要とせず、自然の高度差によ

り持続的な電力を生成することにより、中国南西部山岳地帯の農村に二酸化炭素を排出しないエネルギーを提供しています。

もうひとつのプロジェクトでは、タイの5つのセメント工場に、5つのバイオマス・ユニットを設置することを目指しています。化石燃料の一部を二酸化炭素排出量がより少ないエネルギーに置き換えることにより、地球温暖化を緩和し地域社会に利益をもたらします。

最後に、ピクテは森林破壊、貧困と干ばつの影響に苦しむジンバブエ北部で展開されている、森林保全プロジェクトに資金を提供しています。このプロジェクトは、貧困地域において持続可能な生活を確立する機会を提供します。

カーボンニュートラルは、さまざまなクリーンエネルギー・プロジェクトにより、2020年までの二酸化炭素全排出量に等しい70,000トンオフセットすることにより達成されています。

社会貢献活動の伝統

ピクテにおける社会貢献活動の伝統は、プロテスタントの教えと、公共生活のあらゆる側面に市民が貢献する共同体主義的な政治システムにそのルーツを求めることができます。

1977年、ジャン-ジャック・ゴージェは、人々が自由を奪われているところはどこでも、透明性をもって監視することを推進する組織である、スイス拷問禁止委員会を設立しました。

ピクテは、銀行事業と同じくらい長年続いている社会貢献活動の伝統を誇っています。そのルーツはまた、ジュネーブのアイデンティティの本質的な部分をなしているプロテスタントの教えによるものです。地域社会への奉仕活動は、企業の成長を可能とさせた社会環境への感謝の証と考えられているのです。貢献活動の伝統はまた、一般的な生活のあらゆる側面で市民が参加し、貢献すべきという共同体主義的な政治システムに始まっています。これらの活動は、個人と、より広範な地域社会への貢献の両面で、責任と義務に対する強い意識をもたらしました。今日も、これらの行動特性はピクテのみならず、ジュ

ネーブにおけるステークホルダー（利害関係者）の企業文化や価値観の根幹をなし続けています。

ピクテの歴代パートナーによる多数の市民的貢献としては、1889年から1926年までパートナーを務めたギヨーム・ピクテが、任期中に赤十字国際委員会の委員に就任したことがまず想起されます。また1914年から1933年までパートナーを務めたギュスターヴ・デュナンは、スイス・フランス語圏の著名な交響楽団であり、ジュネーブに拠点を置くスイス・ロマンド管弦楽団の創立メンバーのひとりでした。

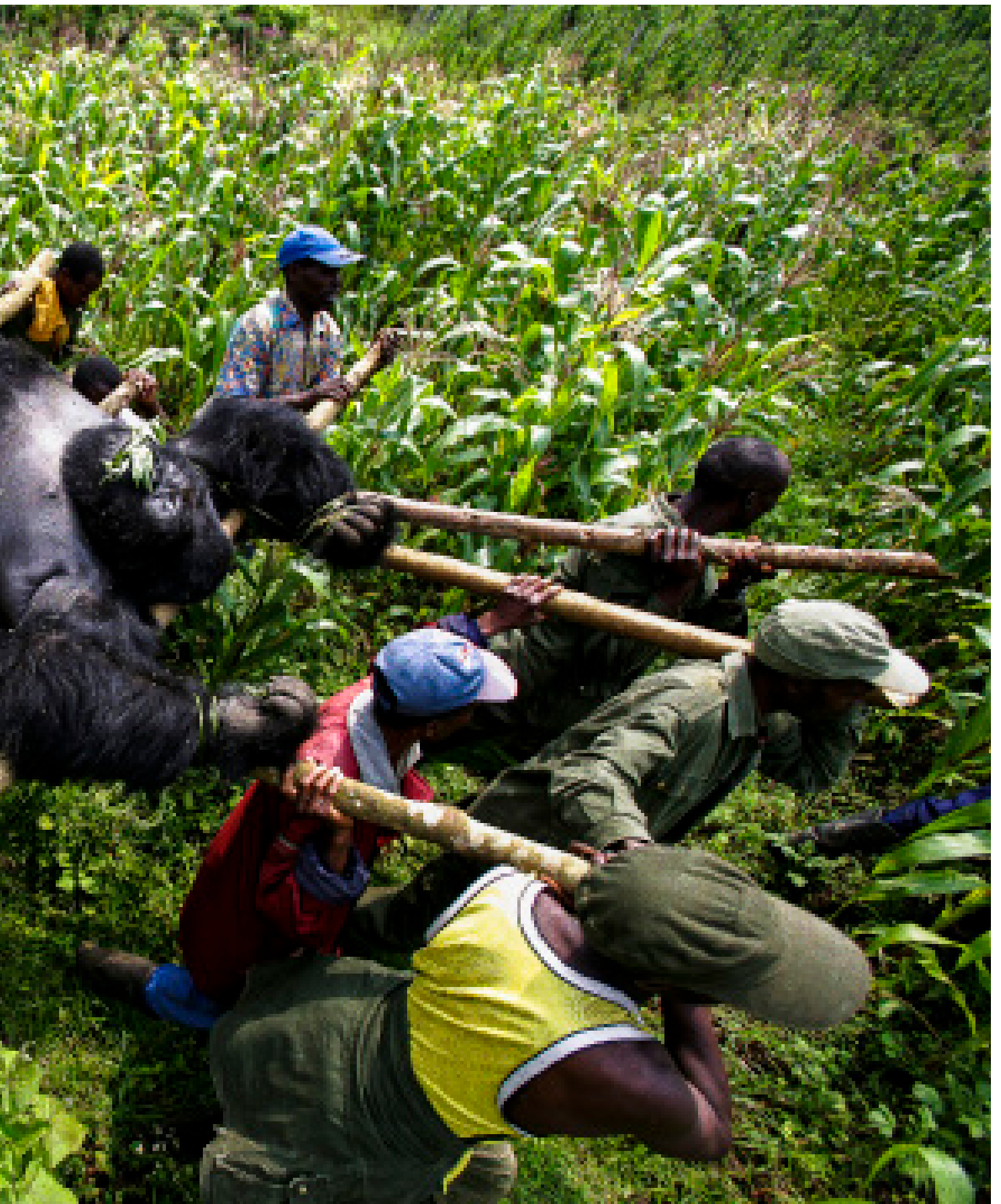
ジャン-ジャック・ゴージェ

(1955年から1973年までパートナー) は、拷問をなくすための活動に一生を捧げるべくピクテを早期退職しました。

「拷問は悪の力に奉仕する絶対的な武器であり、今世紀の恥である」と彼は述べています。彼は拷問を防止するため、人々が監禁されているあらゆる場所を外部の監視下におくというアイデアを持ち、1977年、人々が自由を奪われているところはどこでも、透明性をもち監視を推進するための、スイス拷問禁止委員会 (Swiss Committee against Torture) を設立しました。委員会は後に拷問防止協会という名称で知られるようになりました。ジャン-ジャック・ゴージェの死から16年後の2002年、彼の先見の思想は、国連拷問等禁止条約選択議定書 (OPCAT) となって具体化しました。







「無秩序」をテーマとする第6回プリピクテ (Prix Pictet) 作品「エデンの冒険」(Brent Stirton)。
コンゴ東部のヴィルンガ国立公園で、殺害された4頭のマウンテン・ゴリラの死骸を地元の人々と協力して運び出す保全隊員たち ©Brent Stirton, Prix Pictet Ltd

プリピクテ (Prix Pictet)

2008年、環境のサステナビリティをテーマとする国際写真展およびアワード、プリピクテ (Prix Pictet) が創設されました。プリピクテは、優れた力強い写真作品を通じて、人類が環境に及ぼす影響についての理解を深め、行動の必要性に対する世の中の意識を高めることを目的としています。ピクテの提唱により、フィナンシャル・タイムズと協力し創設されたプリピクテは、サステナビリティをテーマとする世界有数の写真賞としての地位を急速に確立しています。

プリピクテは毎年、特定のテーマを取り上げます。現在までに水 (Water)、地球 (Earth)、成長 (Growth)、力 (Power)、消費 (Consumption)、そして無秩序 (Disorder) という6つのテーマに取り組んできました。批評家、キュレーター、ジャーナリスト、ヴィジュアル・アーティストなど一流の専門家からなるグループが、各々1~5人の写真家をノミネートし、この中から独立した審査委員会による最終審査が行われます。審査員は、その年のテーマにふさわしい、一貫性のある写真作品シリーズを選定します。写真作品は、高い芸術性を備え、ストーリー性を持っていない限りなりません。テーマの核心に迫る最も迫真的な作品が賞を与えられ、10万スイスフランの賞金を授与されます。プリピクテの参加作品は、2008年以来、世界35以上の都市を巡回して展示されています。

プリピクテの第7回目のテーマであるSpaceは、アーティストの創造性とプリピクテの関心事である、環境的サステナビリティの双方に共感を呼ぶものです。

プリピクテの議長を務め、また英国外務大臣付気候変動特別代表であるDavid King卿のコメントです。「Spaceの解釈はさまざまであると考えていますが、思想の中心にあるのは、Spaceの守り手としての人類の役割を検証することです。ひどくなる一方の都市と農地の開拓を行うことで、私たちはこの惑星の素晴らしい自然を略奪しているのです。おそらく最も開発されていないものの、最も搾取されようとしているのは海の下にある広大な空間ではないでしょうか。」

審査は、経済学者のDambisa Moyo氏、写真家のSebastião Salgado氏、Prix Pictet受賞者のValérie Belin氏3名を含むメンバーにより行われました。

ファイナリストの作品は、2017年5月4日にロンドンのヴィクトリア&アルバート博物館で展示され、その場でプリピクテの名誉会長であるコフィー・アナン氏により、第7回目プリピクテ受賞者が発表されます。

ピクテ・グループ慈善財団

ピクテ・グループ慈善財団は、ピクテのパートナーがこれまで長年にわたって行ってきた慈善活動と社会貢献事業に公的枠組みを与えるため、2009年に創設されました。財団は、ピクテのシニア・パートナーが議長を務め、パートナー、元パートナー、そして社員から構成される理事会により運営されます。財団は貧困に苦しむ人々の生活環境を改善することを目指しています。

財団は、スイス内外の慈善団体や公益事業に財政支援を提供します。スイス国内では、ピクテのパートナーが歴史的に支援してきた分野、特に癌、糖尿病、多発性硬化症、エイズに関する研究など健康・医学分野、および、文化に焦点を当てています。スイス国外では、人道支援、青少年の労働と教育の分野、とりわけ発展途上国の貧困地域を支援する数多くのプロジェクトに貢献しています。

自然災害や人道的危機に関連する援助要請の数は、近年急激に上昇しています。創設以来、財団は年間平均200のプロジェクトをサポートしてきました。

慈善支援の必要性を訴える直近の例として、現在のシリア難民危機が挙げられます。

ピクテグループ慈善財団は、La Chaîne du Bonheurとしても知られる組織、スイス・ソリダリティーを支援してきました。スイス・ソリダリティーは、世界の人道的危機という観点から慈善運動に専念しています。

2015年9月15日だけで、スイス・ソリダリティーは「難民緊急援助」のために570万スイスフランを集めることができました。2016年6月まで

「プリピクテに寄せられる写真作品は、今日われわれが直面している脅威の大きさを認識させ、持続可能な世界を構築するというチャレンジあふれる変革への行動に向けて、政府、企業、そして個人としてのわれわれ全員を奮起させるものである。」

プリピクテ名誉会長
コフィー・アナン

ピクテ・グループ慈善財団は、ピクテのパートナーがこれまで長年にわたって行ってきた慈善と社会貢献事業に公的枠組みを与えるため、2009年に創設されました。



リベリアのエボラ治療センター(2014年10月) ©John Moore,Getty Images

に、寄付金は2700万スイスフランに達しました。

同様に、ピクテは、さまざまなイベント、講演会、講習や環境ニュースなどを通じて、環境問題に対する意識を高めることを主な目的とした非営利団体である la libellule を支援しています。

la libellule は主に若年層を対象としていますが、ジュネーブ周辺の年間100を超えるイベントに家族、学校、企業の参加も促しています。la libellule は、2013年に Prix genevois du développement durable を受賞しています。ディレクター兼共同設立者の Mathieu Bondallaz 氏は、「自然について学ぶことは努力を要しますが、そうすることで無限の喜びを得ることができるのです。これが私たちが伝えようとしているメッセージです」と力説しています。

その他の取り組み

2008年、ピクテは、スイスの気候保護を推進する非営利財団、スイス気候基金 (Swiss Climate Foundation) に創立メンバーとして参加しました。同基金は、二酸化炭素排出量を削減するための積極的な措置を講じる中小企業に資金を提供しています。これは会員企業が受けた炭素税の還付金を資金源としています。スイス気候基金はまた、環境保護分野における技術や製品の研究開発へのサポートを提供しています。

その他、地域社会への取り組みとしては、地域のコミュニティ資産のひとつとなっているレマン湖を次世代のために保護することを目的とする、レマン湖保全協会 (ASL: Association for the Preservation of Lake Geneva) を長年にわたり後援しています。1980年にフランス・スイス合同で設立されたこの協会は、立法過程から参加し水源の汚染を制限する政策を推進、特に若い世代をターゲットとした活動を通じて地域住民の意識を高めることにより、レマン湖とその支流の水質を維持することを目指しています。

ピクテ・グループ
本社

Pictet Group head office
Route des Acacias 60
1211 Geneva 73, Switzerland
T +41 58 323 2323
pictet.com
sustainability@pictet.com

免責事項：当資料はピクテ・グループ本社が作成・刊行した資料をピクテ投信投資顧問株式会社が翻訳・編集し、作成した資料です。特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。この文書は書面による事前の許可なしに、その一部または全部を複製または配布することはできません。※MSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

2016年10月刊行

© 2016 Pictet Group

All rights reserved

